

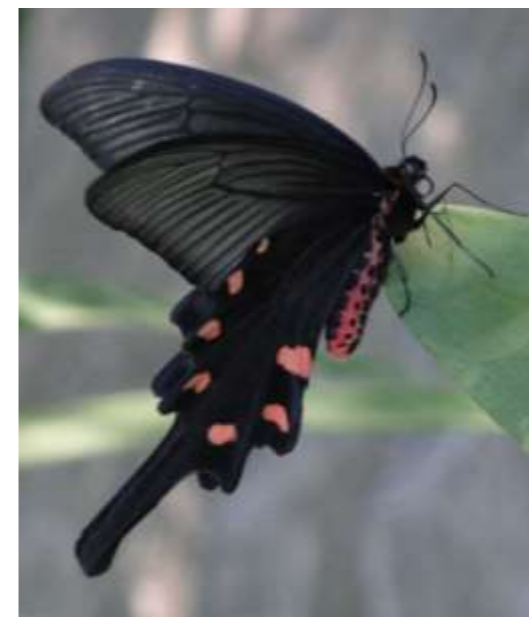
板橋の蝶に関する質問コーナーQ&A

2022.5.15

回答：「板橋区の蝶を調査する会」

	質問	回答
1	卵から成虫に育つまで、何日くらいかかりますか？	通常一か月ほど、卵で冬越しをする種は1年ぐらいのものもあります。
2	板橋の蝶の歴史は何年前くらいから？	日本ができてからずっとあります。板橋区では1980年ころから蝶を調べています。
3	ちょうちょはどうしてみつをすうの？	私たちがおなかですいた時にごはんを食べるのと同じです。ちょうちょはみつがごはんです。
4	蝶の写真がとてもきれいで素敵に撮られています。どのようにして撮っているのですか？	ありがとうございます。できるだけ接写（近寄って撮影）での写真を撮るようにしています。
5	蝶の種類は何種類ありますか？	世界には約20,000種いるといわれています。日本では約250種、板橋区では今のところ56種をかんさつしています。
6	どうしてちょうちょはいろがちがうんですか？	はねにはりんぷんという、いろがついたこなみたいなものがついています。このりんぷんのしゅるい（いろちがい）などでいろがちがってみえます。
7	真っ赤な蝶はいないのですか？	胴体が赤いものは日本にもいます。 ジャコウアゲハ※(写真1) やベニモンアゲハです。外国の蝶にルーゲンスミイロタテハという羽の一部が赤い蝶はいます。
8	ちょうちょはどうしてもようがちがうの？	ちょうちょはしゅるいによってもようがちがいますね。けっこうあいてをまちがわないようにしていることもありますね。 また、ちょうのおすとめすで、いろやもようがちがうものもあります。おすのはねは、あざやかでよくめだち、めすは敵にみつからないように、こげちゃいろなどめだたないいろがおおいです。
9	蝶の羽は左右対称な気がしますが模様が左右で違う蝶はいますか？	蝶の羽はほぼ左右対称になっています。 なお、左は んぷん のはねがオス、右は んぷん がメスという蝶が、ごくまれに見つかることがあります。この場合は、左右ではねの色がちがうことがあります。とても珍しいケースです。
10	板橋の蝶は何種類いますか？	2021年までで56種類見つけています。
11	蝶(成虫)になって生きる時間はどのくらいですか？	春から夏に生まれた成虫は2週間ほど、成虫で冬越しをする蝶は5～6か月生きるようです。

	質問	回答
12	ちょうはどうやって身を守るの？	目立たない色や保護色にしたり、相手をびっくりさせるために目玉模様をつけたりしています。 また、ジャコウアゲハは、ようちゅうのときにどくのあるくさをたべてそだちます。ちょうとなったジャコウアゲハのからだにもどくがあり、からだに毒があるという目立つ赤い模様があります。ことりなどのてんてきは、これをたべません。
13	ちょうをさわるときのこなは何ですか？何の意味があるのですか？	りんぷんといいます。これでちょうのはねに色がついて種類を分かりやすくしたり、はねがぬれるのをふせぎ、より、はやくとぶことができる等の役割があります。
14	さなぎの期間はどれくらいですか？	アゲハやモンシロチョウ等の春から夏のさなぎは10日ほどです。しかし ツマキチョウ※(写真2) のようにさなぎになったら次の年の春までそのままの種もいます。
15	アオスジアゲハのオスとメスの見分け方は？	アオスジアゲハは、ちょっと見ただけではわかりにくいと思います。腹の大きさを見て太いのがメスだと思ってください。地面で吸水しているのはオスです。



(写真1) 胴体が赤い**ジャコウアゲハ**



(写真2) さなぎになったら次の年の春までそのままの**ツマキチョウ**